



収蔵品展展示室内

第6回収蔵品展

収納のかたち—和箆笥を中心に—

第6回収蔵品展は平成8年7月20日から9月16日まで開催しました。この展覧会では川越の特産であった箆笥に焦点をあて、「衣裳箆笥の発展」、「川越箆笥」、「箆笥以前の収納具」、「箆笥の製造工程」の4つのテーマで構成しました。多くの方々にご覧頂きました。御礼申し上げます。

「衣裳箆笥の発展」では導入として桐箆笥の簡単な歴史を紹介しました。江戸時代の読み物である黄表紙にも箆笥が描かれており箆笥が町人の生活に浸透していたことが伺われています。

「川越箆笥」では江戸から大正にかけての代表

的な箆笥の型の変遷と川越の箆笥業の歴史を紹介しました。また特殊な型の箆笥として薬箆笥、夜具箆笥など衣装用以外の箆笥を展示しました。

「箆笥以前の収納具」では箆笥が現れる前から収納具として用いられていた櫃、長持、行李等を展示しました。ここでは火事の際に曳いて逃げたという車長持が人目を引きました。

「箆笥の製造工程」では市内の箆笥店からお借りした道具を展示しました。箆笥を作るにはたくさん道具が必要であることがわかり頂けたと思います。

川越箆笥産業の記録

1.はじめに

第6回収蔵品展は川越の名産であった箆笥に焦点をあてた。展示を構成するにあたって困難であったのは、桐箆笥の産地と言われながら、箆笥についての文献や資料が少ないことであった。

ここでは明治から昭和初期の川越箆笥の記録と統計資料を紹介してみたいと思う。

明治以前の記録としては『武州入間郡川越町諸色明細帳』（慶応3年）に箱屋指物職人が11人いたことが記されている。また『埼玉県商工要覧1970』によると「川越指物仲間連名簿（明治27年）」に「（川越指物仲間は）天明年中に創立」したとある。市内で幕末まで代を遡る箆笥店や箆笥職人もあるようだが江戸時代の記録はほとんどないといってよい状態である。

2.明治時代

○『武蔵国郡村誌』（明治9年）には「川越町物産箆笥千九百八十五組」とある。

○『川越地誌』（明治20年 光西寺蔵）には「箆笥生産高五千組 輸出地方 東京」とある。

○『埼玉県営業便覧』（明治35年 全国営業便覧発行所 川越市立図書館蔵）

県下の商工業者の営業地とその交通案内を主目的に編集したもので店列図（家並図）があるのがユニークである。川越町内の箆笥商6軒（杉田屋、市川箆笥、松本箆笥、高橋箆笥、桔梗屋、忍田箆笥）、箱職3軒、指物職4軒が記載され、川越は「指物としては箆笥有名なり」とある。

○『川越商工案内』（明治44年 川越商工会議所 川越市立図書館蔵）

「箆笥 川越箆笥ヲ以テ、名アリ。其製造極メテ堅固且ツ幽雅ナルヲ以テ、近年販路非常ニ拡張シ、一ヶ年製造高約三万五六千組ニ及ブ。（略）」と記す。

○『材木ノ工芸的利用』（明治45年 農商務省山林局 国立国会図書館蔵）

木工に用いる各樹種の性質と各種木材工業につ

いて記す。箆笥の産地として東京、埼玉、京都、名古屋、大阪、神戸が挙げられ、それぞれの箆笥の生産地、特色、材料、価格、職人の数、工賃、生産高、出荷先など記されている。

この資料は情報量が多く、よく引用される。川越箆笥に関する記述としてはまとまっており、貴重と思われるので、長くなるが川越に関する記述を拾ってみたい。

「南埼玉郡及北葛飾郡地方（仮リニ粕壁方面トイフ）入間郡川越町並ニ比企郡高尾ノ各地ハきり材指物ノ製作盛ニシテ其沿革経路相互間ノ関係等明カナラザレドモ皆維新前ヨリ行ハレシヤ明ナリ（略）川越方面ハ製作家一集団ヲナシ全部専業者トイフバク問屋業者ハ又一面ニ資本案ニシテ製作者ト密接ノ関係ヲ有シ毎年六月ニ工賃ヲ定メテ之ニ準據スルコトトナシ既ニ川越箆笥製造組合ヲ設ケテ事業ノ発達ヲ計リ居ルヲ以テ製作上ノ技術ニ於テモ又販路ニ於テモ著シキ発達ヲ見ルニ至レリ明治ノ初年ニ於テハ箱屋僅カニ四十名ニ過ギザリシモ四十年ヲ経タル今日ハ二百十五名ノ多キニ達セリトイフ（略）」

「製品ノ種類及特色

（略）川越ハ総きり、三方きり、前きりナリ殊ニ三方きり前きりハ彼地ノ特産ニシテきり材ノ下等品ハ之等ノ次物ニ使用シ惣きリニハ良材ヲ用フルヲ以テ川越ノ総きり物ハ他ノ産地ノ其ニ比シテ優物ナリトイフ」

また「営業人及職工数」では

川越には「仲買卸商（川越箆笥製造組合員）一〇人」「製造戸数二一五戸 従業者数二六五人」とある。

また「産額及販路」では

「川越方面

製作高冬期ハ一日六十五組夏期ハ三十組ニシテ一ヶ年ヲ通ジ一日平均四十五組トスレバ一組ノ平均価格八円トシテ一ヶ年一六、二〇〇組約十三万円ノ産額トス箇数ヨリイヘバ三方きり五〇%総きり

三〇%前きり二〇%ノ割合ナリ然レドモ当業者ノ届出高ハ卸三三、三六五円小売一四、七五〇円ニ過ギザレドモ是レ課税上ノ関係ニヨルナラン川越方面ハ出来高ノ二割ハ小売トシ管外輸出ハ東京七割ヲ占メ多クハ三方きりトス其他ハ東海道方面、山梨、千葉、群馬ノ諸県ニ輸出セラル

さらに「川越ニ於ケル木地物仕切相場」、「川越ニ於テ明治四十二年六月間屋仲間ニテ規定セル工賃」として箆笥種別に一組の単価、工賃が記されるがここでは略す。

ちなみに川越においては、桔梗屋から聞き書き、調査の便宜をうけたとある。

3.大正・昭和

○大正3・4・26埼玉新報（春日部市史第4巻）
○『川越箆笥の栞』（昭和初期 川越市立図書館蔵）
大正元年陸軍大演習の際来川した大正天皇に川越箆笥を納め、面目をほどこしたとある。

○大正元・11・26埼玉新報（春日部市史第4巻）
埼玉箆笥商組合発会の記事に川越の箆笥店主4名の名がある。

○『埼玉箆笥要覧』（大正10年 県立浦和図書館蔵）
入間、比企の営業戸数、職工数、製造高、価格。
川越の箆笥店の広告など。

4.統計記録

○『埼玉県統計書』（埼玉県 明治17年～県立浦和図書館蔵 明治44年～川越市立図書館蔵 いずれも欠巻あり）

明治17年から編集刊行された。昭和27年度分より『埼玉県統計年鑑』と改名される。県の調査資料が主になっている。戦後の統計には資料の出所が記されるが戦前のものはない。

明治18、20年には「箆笥卸売商 川越町 二」の記録がある。

箆笥生産の記載が見られるのは明治44年からである。郡別で製造戸数・一日の職工数・生産数量（大正3年まで）・産額が記載されている。箆笥の項目は明治44年～大正3年まで「箆笥」、大正4年～9年まで「箆笥及洋箆笥」、大正10年～14年まで「箆笥類」、大正15年以降「指物」と変わる。また大正11年以降川越市は入間郡と分けて記載される。

昭和14年以降は箆笥生産の項目がない。

また、川越箆笥同業組合の産高（昭和4～11年まで）、指物職人の賃金表がある。

他に川越市立図書館蔵で下記の統計資料がある。

○『大正3年埼玉県入間郡勢一斑』（大正4年入間郡役所）

指物類 数量22,243個、産額134,019円。

○『大正7年埼玉県入間郡川越町勢要覧』（大正8年 川越町）

箆笥 製造戸数115戸200人、産額593,660円。

箆笥金具 製造戸数20戸45人、産額180,000円。

○『昭和3年版川越市勢一斑』（昭和3年 川越市役所）

箆笥類 製造戸数220戸、数量21,091組、産額843,666円、単価40.00円

○『川越市商工統計一斑』（昭和5年 川越商工会議所）

箆笥産額758,000円、三方桐箆笥の単価11.00～9.50円。また市内の駅からの箆笥の発送量。

○『川越市勢要覧』（昭和7年 川越市役所）

箆笥産額736,120円、駅からの移出量898トン。

○『市勢要覧』（昭和16年 川越市役所）

製造戸数260戸700人、産額1,760,000円。また川越箆笥家具工業組合の組合員数など。

○『大正5・10年埼玉県町村統計摘要』（大正7・12年 埼玉県）

指物産額 大正5年278,000円、大正10年1,440,850円。

川越では蚕糸、織物に次ぐ額を示し、北足立郡、南埼玉郡、北葛飾郡の指物産額の総計を上回る。

5.おわりに

川越箆笥に関する知りえた資料は上述のとおりであるが、他にも文書、記録があることと思う。それらの資料がさらに発見され川越箆笥の歴史返遷が少しでも明らかになることを期待してこの稿を終わりにしたい。

（学芸係 荻野将盛）

幻の中世墳墓

～堂山中世墳墓跡について～

1.はじめに

ここに紹介するのは市内吉田の故加藤平兵衛氏とキク夫人によって採集された中世陶器である。これらは昭和22、3年ごろ、字堂山にあった畑から出土したという。出土状態などから中世墳墓の蔵骨器として用いられた可能性が高い。

堂山出土の中世陶器に関しては既にいくつかの文献で紹介されているが、遺物全体の組成や墳墓構造の解明、本地域の歴史的な脈の中への位置づけなどいくつかの課題が残されている。

本稿では、キク夫人より当館に寄贈された出土遺物を紹介するとともに、堂山中世墳墓跡を取り巻く諸問題についても考えてみたいと思う。

2.遺跡の立地と歴史的環境

堂山中世墳墓跡は川越市大字吉田字堂山にある(第1図B)。小畦川に臨む坂戸台地の東縁に位置し、付近の標高は約29m、水田面との比高差は8mを測る。遺跡は現在、東洋大学のグラウンドとな

り旧地形は大きく改変されているが、北側から谷筋が貫入し舌状台地を形成している。この地は古くから人骨が出土することが知られており、寺院跡や火葬場跡との伝承があった。

遺跡の東方には坂戸市赤尾から市内下広谷を経て狭山市柏原に抜ける古道が南北に伸びる(第1図アミ)。この道沿いには中世の拠点的な館、寺院、墳墓が集中している。遺跡の東方1.7kmには鎌倉幕府の有力御家人、河越氏の居館と考えられる国指定史跡河越館跡(★)がある。館跡周辺の発掘調査では12世紀後半から16世紀後半までの遺物が出土している。また南東1.8kmには牛塚中世墳墓跡(A)が存在する。ここでは古墳上に造られた4基の集石墓が発見された。これらは14世紀前半から15世紀前半に営まれたものと考えられる。

3.遺物の出土状況と出土遺物の概要

キク夫人によれば、元来堂山は丘の様に小高くなっており、中世陶器群は数基の板碑とともにこの丘の頂部から発見されたという。これらはいずれも河原石を方形に組んだ区画の内側から出土し中には火葬骨が詰まっていた。また、付近には他にも多くの陶器や板碑の破片が散乱していた。

第2図は加藤夫妻が堂山で採集したこれらの中世陶器を図示したものである。

1は古瀬戸系灰釉瓶子。口縁部を意図的に打欠く。細味の瓶子で胴部は直線的に外傾し、肩が怒る。残存高21.2cm、底径7.8cm。胴部は粘土紐輪積み成形の後、轆轤を使った撫で調整。灰釉は流し掛けで淡緑色に発色する。胎土は明灰色で緻密。

2は三筋壺の系譜を引く常滑系小型壺である。口端部は折り返され断面三角形を呈する。肩には条線が巡る。器高24.9cm、口径11.3cm、底径8.7cm。粘土紐輪積み成形後轆轤撫で。外面下半は篋削り。胎土は小石、長石粒を含む。焼成やや悪く赤褐色。

3は常滑系甕の破片。頸部が内傾して立ち上がり、口縁部は大きく開いて端部を摘み出す。口径21.9cm。粘土紐輪積み成形。内部には輪積み痕、



第1図 堂山中世墳墓跡と周辺の中世遺跡



第2図 堂山中世墳墓跡出土の中世陶器（1：5）

指頭圧痕が残る。内面は篋撫で、外面篋削り。胎土は小石、長石粒を含む。焼成良好で暗茶褐色。

4は渥美系壺。胴部は緩やかに膨らみ、頸部は直立する。現在高22.1cm、底径8.6cm。粘土紐輪積み成形。内面に輪積み痕、指頭圧痕が残る。内外面とも撫で調整。肩に「M」字状の篋描きがある。胎土は小石、長石粒を含む。焼成は悪く黒褐色。

5は在地区甕である。胴部は球形に大きく膨らみ、口縁部は短く外反する。器高24.9cm、口径18.8cm底径11.4cmを測る。粘土紐輪積み成形轆轤撫で。底部に静止糸切り痕が残る。胎土には小石、酸化鉄粒、雲母を含む。焼成は良好で明灰色。

6は算盤玉形の在地区無頸壺である。器高14.8cm、口径13.5cm、底径13.2cmを測る。粘土紐輪積み成形後轆轤を用いた撫で。底部に静止糸切り痕が残る。外面篋削り。胎土は小石、酸化鉄粒、雲母を含む。焼成は良好で堅緻。暗茶褐色を呈する。

中世陶器以外の遺物としては元祐通寶（1086年初鑄）や永徳4年（1384）の結衆板碑などがある。

4.まとめ

出土した中世陶器のうち、1の古瀬戸系灰釉瓶子、3の常滑系甕、4の渥美系壺は13世紀前半に焼造されたものと考えられる。また、2の常滑系小型壺、5の在地区甕、6の在地区無頸壺はいずれも13世紀後半の製品であった。

堂山にはこれらの陶磁器を蔵骨器とした集石墓が営まれていたと考えられる。陶磁器を蔵骨器とする集石墓の盛行は一般に13世紀前半から14世紀前半と考えられ、周辺では牛塚中世墳墓跡や所沢市円照寺裏中世墓址などに類例が見られる。

堂山中世墳墓跡が河越館と距離的に近く、館の真西に位置することはこの墓所に河越氏と有縁の人々が葬られた可能性を示唆する。また、31名もの僧俗が交名した永徳4年の結衆板碑が造立されたことは、後世にもこの地が聖所として人々の心に強く意識されていたことを示している。

文末になりましたが、当館に貴重な資料をご寄贈いただき興味深い逸話の数々をお聞かせ下さった加藤キク氏に心から感謝いたします。

（学芸係 岡田賢治）

川越市立博物館におけるボランティア活動

—機織りの体験指導が始まるまで—

博物館では、市民の方々が郷土の歴史・文化遺産への学習を深めていく一助となることを願い、様々な教育普及事業を行っています。どの事業にも多くの方々が参加して下さり、学習への意欲的な取り組みに感謝しております。

講座・教室への参加者の中には、博物館が用意したカリキュラムが終了した後、同好会を組織して、さらに継続的に学習を進めていこうとする方々もいらっしゃいます。現在は、「古文書同好会」、「華の会」、「縄文土器を楽しむ会」という3つの同好会が作られ、それぞれ定期的に活動しています。

今回は、機織り講座の講師として織りと染めの指導をお願いした「川越唐棧愛好会—手織りの会」と、講座参加者により始められた「華の会」が、来館者に織りの体験学習の場を提供して下さっている様子を紹介します。

博物館の体験学習室は、歴史・文化を体験的に理解していただく場として、講座・教室等の開催や、休業土曜日の児童・生徒を対象とした土曜体験教室の開催に活用されています。また、こまやお手玉、けんだまなどを用意し、それらを使った伝承遊びに親しんでいただく場ともなっています。博物館では、体験内容をさらに充実させ、体験学習室の効果的な運営を図っていきたく考えてきました。

「手織りの会」や「華の会」の会員の方々は、同好会としての活動を続けながら、①「織りの楽しさ」や「機織りについて学んだ成果」をより多くの人々に伝えていくこと、②「織り」についてより多くの人々と情報交換し、さらに広く、深く学習していくことなど、外に向かって開かれた課題を持つようになりました。それに加えて、同好会の活動場所が体験学習室という来館者空間であり、来館者とのコミュニケーションも多く、実際に機織りを体験する場面も多く見られました。ときには、博物館に織りの体験をしたいという問い合わせも寄せられるようになりました。

そこで平成7年度、博物館と、「手織りの会」「華の会」とで体験学習室の運営について話し合いを重ね、「織り」に興味を持った来館者が体験できるよう、同好会の会員が定期的にボランティアで機織りの体験指導をして下さることになりました。このことは、それぞれの会の会則に次のように表現されています。

「川越唐棧の普及活動の一環として市立博物館で毎週土、日に唐棧織りの実演・体験を、ボランティアで行う。」(手織りの会の事業計画より)

「川越市立博物館の各種事業に協力する。来館者のための織物体験をボランティアで行う。」(華の会会則より)

また、その具体的な内容は、以下の通りです。

- 1 手織りの会—毎週土・日曜日、唐棧織り
- 2 華の会—毎週火・水曜日、裂き織り
- * 講座・第2土曜日体験教室など、博物館主催事業で使用する日を除く。
- * 時間—10時～3時(昼の休憩時間を除く。)

同好会による組織的な体験指導ボランティアが始まって1年余り経過しました。機織り体験をされた来館者の様々な喜びの声を聞くにつけ、市内外からボランティアに来て下さる会員の皆様に深く感謝申し上げるとともに、市民参加型の博物館運営の重要性を再認識し、さらに努力していきたくと思います。



手織りの会の体験指導

華の会の体験指導

(教育普及係 平野秀昭)

学校教育と博物館(10) 博物館学習での事前打ち合わせについて

博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助しようようにも留意しなければならない。(博物館法第3条第2項より)

博物館との連携を通し、今まで以上の教育効果を上げている学校が増えつつあります。そのポイントは、博物館と学校とがお互いのよさをそれぞれ発揮し合うことができるよう事前の打ち合わせを重ねていくところにあります。

博物館で実施される市内の小・中学校社会科学習では、次の内容等を各学校の先生方と事前に打ち合わせています。

【打ち合せメニュー】

□学習への願い、方針の明確化

学校の実態、児童の実態、学校の教育目標、学年目標等を伺い、博物館学習に対しての願いや方針等を明確にしていきます。

□学習範囲や重点とする内容の決定

学校での学習進度、子供の興味・関心に即しながら学習範囲を絞り込んでいきます。学習範囲は、バス利用時期との関わりもありますが、およそ次のような範囲に絞られてきます。

第1期 6月

○原始・古代に視点をあてて、これまでの学習の発展として

○原始・古代・中世の人々の暮らしを中心にして

○江戸時代の導入として

第2期 11月～12月

○歴史学習のまとめとして

○特設の単元「川越の歴史」として



博物館での学習の様子

第3期 1月～3月

○小学校3年生単元「川越市の人々のくらしのうつりかわり」の学習として

□展示資料、活用方法等についての研究

先生方と館内を回り、資料の解説や活用方法の提案等を交え、博物館での学習の充実を目指し、一緒に教材研究を進めます。リピーターの先生には、前回の学習の様子を伺い、その改善策を考えていきます。また、博物館での学習が初めての先生には、資料の紹介や活用方法等の紹介に努めています。

□ねらい、学習形態、学習の流れ等の決定

博物館での学習時間は、正味1時間10分です。学習のねらい、個別、グループでの学習、あるいは先生方によるミニ授業等、どのような形で学習を進めるか、どのコーナーにどのくらい時間をかけるかを話し合いながら、大まかな当日の学習計画を作成していきます。

□役割分担の決定

博物館には、博物館指導主事、学芸員、展示解説指導員等の職員がいます。学校と博物館との独自性を生かし、博物館での先生方の学習指導の支援ができるよう役割分担を話し合っ、決めていきます。

□ワークシート作成へのアドバイス

各学校の地域的な特色や児童の実態に応じることができるよう参考資料や情報の提供に努めるとともに、他校の作成したワークシートを参考資料として提示し、博物館での学習がより効果的に進めることができるようワークシート作成へのアドバイスを行います。

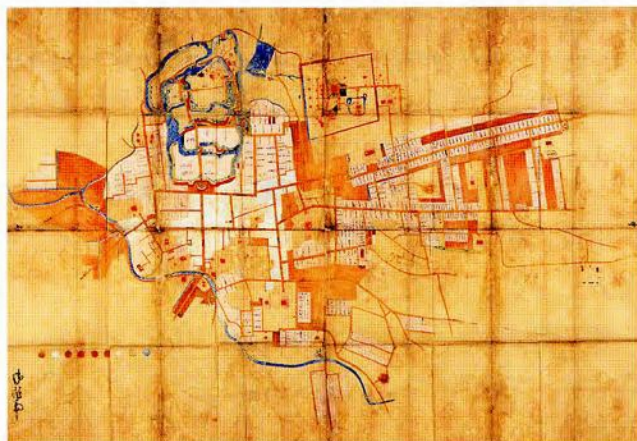
今後も博物館では、子供の学習意欲の向上と先生方の博物館学習の指導の援助を基本とし、事前打ち合わせの一層の充実を目指していきたいと思
います。(教育普及係 平岡 健)

●●●● ただいま準備中 ●●●●

川越市立博物館では第10回企画展として「町割から都市計画へ—絵地図でみる川越の都市形成史」の開催を予定しています。会期は平成9年3月22日から5月11日です。

川越はかつては川越藩の城下町として繁栄した町です。松平信綱によって町割された城下は現在もその形を残しています。明治になっても川越は城下町商業の伝統を受け継ぎ、埼玉県下第一の商業都市として発展してきました。

この企画展では川越における都市形成の歩みを、江戸時代に書かれた城下絵図と近代になって作成された市街図によってたどってみるものです。



川越城下図(石井虎男氏蔵)

❖ 平成7年度 資料寄贈者名簿 ❖

矢島 元之	渡辺 覚造	鎌田 常雄	鈴木喜三郎	原 正義	戸田 周一	千村光治郎
小久保 徹	鈴木 邦照	宮崎 正儀	町田 忠男	白木 秀典	加藤 キク	澤田 陽一
斉藤 俊勇	大河原光行	亀田 静子	小川 喜助	菅原 吉蔵	清水 豊子	新井善次郎
勢メ 真作	野尻 佳延	山崎悠紀子	島村 剛	中嶋 典男	荷田 光雄	斎藤 貞夫
飯島 豊治	川越市総務課	田中伝次郎	岩田 薫	杉山 英夫	一万田国彦	野村 勝則
奥津 孝雄	黒川 五朗	大塚 敬三	永井 宏	松本 てい	川村太一郎	間坂 宏
川越市会計課	岡村 庄一	宮岡 琅次	奥平 俊夫	清水 龍海	石井 義雄	新井 正俊

資料をご寄贈いただき厚く御礼申し上げます。

ご寄贈いただいた資料は、今後「収藏品展」等でご紹介させていただきます。

利用のご案内

◇開館時間	午前9時から午後5時まで ただし入館は午後4時30分まで
◇休館日	月曜日(休日は除く) 館内整理日(毎月第4金曜日、ただし休日は除く) 休日の翌日(土曜日または日曜日は除く) 年末年始(12月28日から1月4日まで)
◇入館料	〈常設展〉 大人200円(160円)、学生・生徒100円(80円)、児童50円(40円) ()は20人以上の団体料金 特別展については別に定めます 〈川越城本丸御殿、川越市蔵造り資料館との三館共通券〉 大人300円、学生150円、児童80円
◇交通手段	JR川越線・東武東上線川越駅から東武バス札ノ辻下車徒歩8分 西武新宿線本川越駅から東武バス札ノ辻下車徒歩8分

発行日 平成9年1月30日

発行 川越市立博物館

〒350 川越市郭町2丁目30番1号 ☎0492-22-5399